

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立日高高等学校)

目指す学校像	「地域の期待に応え、社会で活躍できる生徒を育てる学校」
--------	-----------------------------

重点目標	1 授業改善を進め、基礎学力の向上を図る 2 基本的な生活習慣を確立させ、豊かな心身を育む 3 組織的・計画的な進路指導を充実させ、一人ひとりの進路実現を図る 4 地域・保護者との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 アクティブラーニングを取り入れた授業改善が進みつつあり、授業に満足している生徒の割合は、向上しつつある。資格取得に向けた補習体制が整い、生徒は各種検定合格に向けて努力している。 【課題】 昨年度配置されたタブレットやプロジェクターを活用した授業づくりを進める。基礎力診断テストを活用し、学習到達度を的確に把握し、生徒の実態に即した授業展開をより一層推進する。部活動については、部員が定着するように部活動活性化への方策を検討する。	学習意欲を高め、基礎学力を向上させる。	①教員相互の授業観察や研修会を通じて教員の授業力を向上させ、生徒の基礎学力の定着を目指す。 ②朝学習、タブレット、学習サポーター、全クラス配付の新聞4紙を活用して、学ぶ意欲を育成する。 ③年2回の学校評価アンケート(6月、12月)を実施し、経年変化を調査する。 ④学びの基礎診断の一環で、基礎力診断テストを活用し、学習到達度を把握し、個に応じた指導をさらに充実させる。	①授業公開や研修会を実施できたか。授業満足度80%以上を達成できたか。 ②朝学習の実施状況。タブレット・学習サポーター・新聞を活用できたか。 ③「授業がわかる」、「授業に満足」の回答80%以上。 ④基礎学力がどれくらい伸びたか。		
		生徒に積極的な学校生活を送らせ、高校生活の満足度を85%以上にする。	①各種検定試験に挑戦させ、達成感と向上心を育成する。 ②部活動や生徒会活動、学校行事に積極的に取り組み、生徒の自立心と協調性を育成する。 ③部活動の加入率約60%を維持する。また、運動部は年間を通して単独で大会に出場する。	①検定試験の受験状況、資格取得状況。 ②学校生活への満足度が上昇したか。保護者の満足度95%以上を維持できたか。 ③年間を通じて加入率約60%を維持できたか。各種大会に単独チームで出場できたか。		
2	【現状】 落ち着いた生活環境は整いつつある。また、多くの社会貢献活動を実施し、地域への貢献も行っている。 【課題】 遅刻が多い生徒は減少しつつあるが、さらに段階的・組織的に指導を徹底する必要がある。また、多くの社会貢献活動を実施できたが、今後は自己有用感を持たせられるように活動していく。	基本的な生活習慣を確立させ、規律ある態度を身につけさせる。	①挨拶励行・時間厳守・整理整頓の目標を教室に掲示し、規律ある生活態度を育成する。 ②朝の挨拶運動を継続し、あらゆる場面で挨拶ができる生徒を増やす。 ③TPOに応じた服装指導等を学校全体で行う。	①「ルールを守らせる指導」、「整理整頓」の回答90%以上。 ②教員は毎日、生徒会は週2回の挨拶運動ができたか。「挨拶をする」の回答90%以上。 ③登校時、全校集会時に実施できたか。		
		体験活動や社会貢献活動に積極的に参加させることにより、生徒の豊かな心身を醸成する。	①市や市商工会からのボランティア要請には、できるだけ応え、多くの生徒が地域に貢献できるようにする。 ②地元小学校との交流や見回り活動を年2回実施する。	①生徒全員が何らかの社会貢献活動に参加できたか。 ②小学校との連携回数とその内容。		
3	【現状】 各学年とも計画的かつ組織的に指導し、進学準備、自己開拓による求職者を除きほぼ全員の進路を確定できた。 【課題】 進路に対する意識が希薄な生徒がいる。将来働くことへの意識を高め、個に応じた進路指導を徹底する。	計画的・組織的な進路指導により、生徒全員の進路実現を目指す。	①3年間を見通した進路計画を策定し指導をしているが、さらに見直しを図りながら生徒に適した進路指導を実施する。 ②キャリア教育講演会を実施し、生徒の進路意識を向上させる。 ③保護者対象の進路行事や情報発信を工夫することで、家庭の理解や協力をさらに強固にする。 ④生徒をオープンキャンパスや合同企業説明会に積極的に参加させる。	①計画的かつ組織的に指導できたか。進路未定者がゼロに近づいたか。 ②内容のある講演会が実施できたか。 ③文書や一斉メールを活用できたか。 ④参加人数とその内容。		
4	【現状】 文化祭や体育祭等の学校行事に参加する保護者が増加しつつある。また、地元小中学校からの信頼も高まりつつある。入試倍率が1倍を超え、本校への関心が高まりつつある。 【課題】 学年別懇談会、PTA総会等の行事を、安心メールや通知により周知し、参加者を増やす。学校説明会の内容をさらに充実させたり、出前授業や公開講座を積極的に実施したりして、志願者確保に向けた取組を行う。	保護者の本校への理解度を向上させ、PTA活動をより充実させる。	①PTAだよりを年3回発行し、保護者への広報に努めるとともにホームページにも掲載する。 ②保護者会等あらゆる機会を通じて、一斉配信メールへの登録を呼びかける。 ③PTA理事会を通じて保護者同士のネットワークを構築し、保護者の学校行事への支援と参加を呼びかける。	①PTAだよりの発行状況。ホームページへの掲載状況。 ②一斉配信メール登録者70%以上。配信回数年間50回以上。 ③昨年度と比べて参加者が増加したか。		
		積極的な情報発信により、本校の今を正しく伝え、理解度を高め、志願者数を増やす。4年連続入試倍率1倍超を実現させる。	①ホームページの内容を充実させ、更新回数年間300回、アクセス数1日平均950件を目指す。また、「日高高校だより」年6回発行を目標とする。 ②学校説明会・体験入学会・イベントミーティングを計9回実施する。また、進学フェア等へ積極的に参加し生徒募集につなげる。 ③授業公開、出前授業、公開講座を実施し、地域や地元小中学校との連携を深めることで、本校の理解度をさらに高める。	①学校全体で協力し達成できたか。 ②学校説明会等への参加者が増加し、参加満足度が高まったか。 ③各取組の実施状況とその内容。		

学校関係者評価
実施日 平成31年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等